

## 【資料】

## 安濃郡長谷場村「御触控並記録」(三)

茂木 陽一  
福浦 弘幸  
篠原 一博

本稿は、一昨年『地研年報』第七号に掲載した「御触控並記録」(一)、昨年『三重法経』第一二二号に掲載した「御触控並記録」(二)に続く、三回目の分載分である。「御触控並記録」は、現在二冊確認されており、一冊は文久三年正月から慶応三年十二月まで、第二冊は表紙がかけられているが、慶応四年正月から明治二年十二月までの記事が記載されている。本稿を以て、第一冊分の翻刻が完了する。

我々は、引き続き第二冊目の翻刻作業に取り組んでおり、これについても継続して起稿する予定である。

この史料の性格については、前々稿に記したとおりであるので繰り返さない。翻刻に当たった際の留意点も前稿・前々稿と基本的に同様であり、翻刻に当たってはなるべく原史料の体裁を崩さないようにつとめた。しかしながら、頁数の制約や編集の都合でいくつか変更を加えている部分がある。

- ① 原史料は、最初に太字で見出しに当たる記載があり、それに続けて本文部分が細筆で一行三〇から四〇字程度がびっしり書き込まれているが、本稿では一行二八字の二段組とした。
- ② 見出し文の右に記した(七一)から(一三三)は参照の便などのために我々が付した史料番号で、「御触控並記録」の(一)、(二)からの一連になっている。つまり、文久三年から慶応三年までの「御触控並記録」の記事は合計で一三三件ということになる。
- ③ 読解の便のために適宜読点を付した。
- ④ 者、江など助詞として使われている漢字はポイントを下げて表示した。
- ⑤ とくに必要と思われる固有名詞以外の漢字は通行の字体に改

めた。

⑥ 頭注が施されている部分は、当該箇所にも\*を示し、その記事の末尾にポイントを落として記載した。

⑦ その他、翻刻に際しては、茂木陽一「天保一四年諸国人別改令に関する一史料」(『地研年報』第六号、〇一年三月、三重短期大学地域問題総合調査研究室)のやり方に準じた。

本稿作成中に、この史料の旧蔵者であり、翻刻掲載のご了解をいただいた大林日出雄先生の訃報に接した。三重県の近代社会運動史の開拓者、第一人者であるとともに、本史料を含む永谷家文書が核となっている『伊勢片田村史』編纂の中心でもあった。我々にとっても引き続きご指導を仰がねばならない方であった。大林先生のご冥福を心から祈りたい。

## 慶応二丙寅年

御奉行

正月十五日御家老職

藤堂所左衛門様

加判御軈役

嶋川強右衛門様

正月十五日御印付

伊東弥三右衛門様

御郡方

戸波朋次郎様

久世孫之丞様

九月廿四日町奉  
行兼帶被仰付

寺田直右衛門様

添役

前田幾之丞様

御代官

山岡幡之進様

是迄部屋頭勤候  
処御家督知行取  
二付席順改

支配 石井四郎兵衛様

同 富澤紋三郎様

免奉行 生形尉左衛門様

長田圓六様

嶋 佐十郎様

殿様御在国

庄屋 永谷助之丞  
年寄 茂左衛門

御奉行所御手付御筆頭

奥山友蔵様

山本雄次郎様

同所御筆頭

森谷定蔵様

三野三之助様

御郡方御手付御筆頭

伊藤惣右衛門様

前田久右衛門様

同所御手付

(貼紙)

大庄屋

支配 伊藤七右衛門殿

河辺奎左衛門殿

鈴木多郎兵衛殿

奥田宗十郎殿

赤塚善十郎殿

服部庄右衛門殿

前田七郎左衛門殿

松本宗十郎殿

中川九左衛門殿

上田平次郎殿

多喜常之丞殿

大庄屋見習

八月四日被仰付

鈴木岩之輔殿

多郎兵衛殿悴事

(七二)  
裏附御狩衣御拝領旧臘京都より之御使到着之處、同廿五日野々宮中納言  
様雜掌より御用之儀有之候二付 同廿七日御家老共之内  
罷出候様申来候二付、則廿七日 數馬

罷出候処、御領分二被為在候 山陵御修補御成功二付、

被為蒙

宸賞、裏附御狩衣表地

中納言様直達二而 御拝領被遊、難有 思召候

右之趣郷中未々迄相触可奉恐悦也

寅正月二日 強右衛門

所左衛門

大庄屋名前

(七二)

御見立免願

△去ル戌年御請免、翌亥年より御見立免二候処、猶又当寅年之

儀も一ケ年限御見立免二願候様申談候二付、正月晦日願書差

出置候処、四月御聞濟

(七三)

一身田御門下安心向惑乱筋之儀二付御取扱并寺院

門徒江御達

△去丑年十月朔日御触、一身田表此頃御模様も有之趣、就而ハ

御門下末寺住持先つ一身田表江罷出候儀相見合候様、若無抛

用向等有之罷越申度候ハ、其段申出候様御達

△同十一月廿日御触、御七晝夜ハ罷越候而も宜、尤心得違無之

様可仕旨、猶御門下之者参詣致候儀も不苦旨御触、同廿一日

御触、此度宗論之儀二付御門下之者参詣之外一切罷越申間鋪

旨被仰下候間、急々申聞候様御達

△去冬一身田末寺宗門安心向之儀二付、南方北方と別れ右双方

江御説得御教諭も有之候へども、党を立争ひ人氣立候二付、

(二)

七晝夜御法事御執行中二も法談僧を相手取強卒及候儀有之、右之次第二付一身田附ハ勿論御固之御人数も御差向彼是御取扱二相成候事

△当正月十五日、御門下寺々御用向有之二付、一身田江參殿いたし候様可申達旨正月七日御触二付、田中村庄屋当村永谷助之丞より本光寺来嚴寺江其段申遣、尤右御用ハ御門主様安心之肝要御書御撰述、御堂二而未寺御門下之者江御理解御教諭有之、南北之末寺江向後一致之為御酒被下二相成候旨申出候事

△三月廿七日、大庄屋所より同廿八日用向有之二付、庄屋之内罷出候様通達有之候二付助之丞罷出候処、一身田末寺正月十五日法論御教諭も有之候へ共兎角不相用趣、依之本山より出府被仰付候間義論有之候ハ、罷下り可申、乍去左候而ハ迷惑二も及可申儀、本山江御断申上可然旨可申達様との儀二付、其段兩寺江申聞御断申上候事

△五月十七日、本山表一身田より田中村本光寺呼出し二相成、昨年来宗意安心之儀二付御門主様江御痛心奉懸、其方儀上座役も相勤居候へハ夫々取慎可申筈之処無其儀、多人数江相加里候段不埒之至二付、自坊二おゐて差扣余人面会相慎可申旨被仰渡、六月三日来嚴寺江も同様御呼出し、昨年宗意安心之儀二付多人数毎度登山いたし、御痛心奉懸不埒之至二付、宿坊二おゐて差扣諸人江面会相慎候様被仰付、同所御廊伴二而差扣居候処、同六日御免二付帰村、本光寺同十九日御咎御免二付右被仰付御免、兩度共夫々御役所二御案内申上候事

(七四)  
京より大坂江往來之僧社人等印鑑願出持参いたし候様御達

△京都より大坂江東西之兩街道筋、八幡山崎江田壘壁関門御取立二相成、昨秋從公儀御書付相渡候処僧社人ハ印鑑無之者ハ通行差支候趣二付、爾来彼地江罷越度者ハ前以願出可申、左候ハ、御印鑑御渡可被下旨被仰渡候段正月十四日御触

(七五)

茂左衛門倅茂八大砲加人農兵被仰付京都江出張并植付前歸村歎一件

△長谷場村農兵清水茂八、明廿七日期五つ時可申達儀有之候条、庄屋中拙宅江召連出候様御達二付、同道いたし候処大砲加人農兵二被仰付候事

△茂八儀、二月十三日より京都江出張被仰付罷越居候処、追々農事繁多二趣、最早苗代時節二相成、引続冬作取入肥し仕込等可仕時節二相成候処、親茂左衛門年六十三、当作巾着町仕付可申二付、歸村仕候様被仰付被下度段三月十八日奉願歸村△十月六日より又々出張、京都江罷越、此度之処略ス

(七六)

御場方より見分請候願ハ総而四通りづ、出し可申様御達

△御場内江家建或ハ瓦焼等勿論、其外御場方より見分請候願ハ爾来願書四通づ、差出し候様相心得可申旨、二月十三日御触

(七七)

宗旨人別調

△当年改高惣人数百五拾四人、男六拾九人女八拾五人内九人内男五人女七人去御改以後増人、外六人内男式人女四人去御改以後減人、家数式拾九軒、無屋壹株、馬数五疋丸、牛数七疋内老疋増、右之通書上候事、尤奉公人ハ拾三人内男六人女七人御家中并御領下町郷中二奉公稼人

(七八)

去丑年凶作当春取凌方及極窮者御粥被下并助成米金加入之儀米価引下方御切手正米売買之儀同御売下一件

△去丑年凶作米価高直二付、極窮者二而飢二も及可申者人数申上候様、二月十一日庄屋御呼出し御達有之候処、当村二ハ去暮耕作飯米并飢飯米手当、飢歳積金并村積金之内出金買入相貯有之、ケ也取凌可申旨書上置候処、町方并町統郷中并近村極窮之者共江御粥可被下段、五月三日御触有之、村々極窮二而凌兼候者江ハ御粥可被下間、当作巾家内人別年齢等申出候様、猶又村方二而ケ也二暮し候者より助成等いたし、右二而取凌候村々も其段可申出旨、五月廿日御触有之候処、当村二ハ無之二付、此上出来候ハ、村方仮成二暮候者より少々つゝ助成米差出為取凌、難行届節ハ御願可申上旨、五月廿九日書上ル

△御蔵出し米并飯料余分之米、御領下二而売買之外、船積ハ勿論他所売一切御停止之段四月四日御達、米価引上候二付、此上及騰貴候とも当所相場之儀ハ来ル十一月晦日

相場三俵五分を限

右以下二而取引可致、猶又飯料払底二而難決之趣相聞候二付、町方町統郷中近村之者江飯料手当として、御蔵米三千俵此後之定相場を以御売下被下候段五月三日御達、就而ハ小麦豆之類も船積ハ勿論他所売御差留、同四日御触

△一般米払底之儀二付、他領江拔売無之様入念取締、猶小売屋共二も他領江売渡不申様、為相規鑑札相渡置候間、右を目当二売渡候様、飯料并小売等精誠郷中米買入、若無擬御切手二而御蔵出し願敷者ハ村役人江申出、重々取調候上、御蔵出し願書差出し可申旨御達二付、去暮困米御切手御蔵出し残り八俵、七月七日御願申上出し候事、小売鑑札并飯料余分売払候節、為引合当村江三枚御渡二相成、右御触五月廿四日御達

△郷中より当六月上納、切手米を以相納可申処、払底之趣二付自然調兼候分ハ、相場三俵五分以下、当所之相場を以金納二可被成下旨五月三日御達、切手米払底二而下難決之趣、右ハ全余分切手猥二貯居候者可有之故之事二候、当節ハ格別御憐愍筋被仰出候折柄、自然右様之儀有之候而ハ以之外心得違二候間、上納余分飯料手当之外ハ早々売捌候様、猶他所二而所持いたし居候者も有之候ハ、米問屋同仲買共より早々

(四)

為売払候様取計可申旨、六月八日御触

△当今町郷中飯料払底難決之趣達 御聞、格別之 尊慮を以米二千俵、相場三俵五分替二而矢野御蔵米之内御売下可被下旨被仰出候段、八月廿七日御達

△当村之儀ハ、去冬困米四拾七俵買入相貯有之候二付、其内三拾六表ハ種漬後より耕作飯米二貸渡、去暮買入相場五俵六分之代金二四歩利足を加え年賦江取立可申積り貸渡、残り拾俵俵ハ是又買入相場江其月迄之利足を加、小前江売渡候処、右売米去暮買入米二而不足二付、当村庄屋永谷助之丞田中村兼帯二付、同村困米之内六俵式斗、同村取扱相場五俵三分五厘替二其月迄之利足を加、当村小前江売渡候二付、八月迄二不残取扱申候事

△田中村二飢二及候者三軒有之二付、同村庄屋当村永谷助之丞より助成米式俵差出し、極窮者江二月以来屯人前二米壹合つゝ日々計り渡為取凌候二付、翌三月廿五日御褒美として助之丞江金百五拾疋被為下候事、猶又前田村庄屋後見二付、米式斗右同様助成二付、同日銀五匁助之丞江御褒美別段被下

(七九)

交易場三港江出稼并佛蘭西都府江展観所相開候儀二付御願下此以後猶以他所出し諸色御差留并亥年村々建札之儀御達

△大目付江 神奈川長崎箱館三港江出稼移住致し、勝手二可遂商売旨、去ル末年相触置候通相心得、万石以上以下領分知行所産品差出勝手二交易、尤万石以上以下陪臣二も舶来武器軍艦買入候儀ハ是迄之通、其地運上所江申出差図請可申候、勿論商船二候ハ、蒸気帆前も無差別、百姓町人にて買入之儀不苦、其外都而最寄相触置候通可相心得

△大目付江 来卯年三月、佛蘭西都府二おめて宇内各州出産之物品を聚、展観場相開候二付、御国産物を以御差送り有之候様致度旨同国改府より申立、御国土地産之品々被差遣候筈二候間、万石以上以下領分知行所出産之物品、同所江差送り度

望之者ハ其筋江可申立候、且百姓町人二而も同様差出度者ハ御差免可相成候間、是其筋々江可申立旨

△右公儀より相渡候御書付之趣触達候へ共、御領下之儀ハ去ル亥年八月 御憐愍を以被 仰出候御主意之趣も有之候間、此以後逆も諸品猥ニ他所江出し候儀ハ不相成、若無抛儀も有之候ハ、其趣伺出可申、右御触ニ就而ハ去ル亥年八月、綿木綿其外何品ニ不寄、交易等之船積船出し不相成旨被仰渡候、右御書付之趣相認、村端ニ相建候板札朽損し候とても、此後建替ニ不及旨被 仰下候段、五月廿二日御触

(八〇)

### 天保度吹立二朱金通用御停止并引替步増被下御達

△大目付江 天保度吹立二朱金之儀、追而通用停止可被 仰出候間、所持之者ハ引替可差出旨、去ル子四月中相触置候得共、兎角引替残り方遅々いたし候二付、向後世上通用可為停止、就而ハ引替手当、是迄百兩二付金三拾兩之処六拾兩被下候間、早々引替候様、公儀より四月之御書付同廿七日之御添書を以五月廿二日御触

△翌卯六月引換手当九拾兩可被下旨、七月廿日御触

(八一)

### 当村御給知坂井帯刀様御隠居御家督

一筆啓上いたし候、向暑之節御座候へ共弥無御障候哉、御勤珍重奉存候、然者  
御父子様共去ル十九日被為召候処、兼而御願之通御隠居御家督無相違御席郷鉄砲頭結構被為蒙 仰、難有思召候、右之段

為御知得御意候様被仰付候条如斯御座候、恐惶謹言 拙者共より

五月廿九日

永谷助之丞様

吉村吉駄 判  
杉山弥一郎 判

右五月廿九日朝着二付返事

貴<sup>(中)</sup> 拝見仕候、如仰向暑之節御座候処

帶刀様  
男也様、益御機嫌克被成御居、五月十九日

御父子様共被為 召候処、御願之通御隠居御家督無相違御席郷鉄砲頭江被為蒙 仰候段、為御知御紙表之趣承知仕 御結構之御首尾奉恐悦候、右御歎 各様方迄

宜書札二御席之割可然御披露奉頼候、恐惶謹言  
六月四日 永谷助之丞 判

杉山弥一郎様

吉村吉駄様

△右六月五日二伊賀飛脚二差出ス

△右二付御歎として、七月十八日庄屋永谷助之丞并村方小前惣代多左衛門、伊州上野御屋敷江罷出、其節差上鯉節五百目代金貳匁二而買求、外菓子壱箱代金貳朱役人中兩人江土産品買、惣代拾匁入用、右品夫々差出、男也様ハ藤堂九兵衛様御次男二而、御養子二被為入貯、御家督後更名、帶刀様と御交名、御広間二而御逢有之、同十九日帰村  
△右之節御挨拶として金壱兩被下候二付、右を以氏神素屋之神簾拵申口江入

(八二)

### 風雨洪水度々

△当年植付五月十日より植初候処、同十四日夜より十五日朝江向大雨洪水二而、水押水漬之田畠武町九反六畝、砂入田畠七畝、其節浮苗等出来根付不足候事、但同十六日植付済

△七月九日夜より同十日朝江向大雨出水、乍去破損目録出し可申程ニも無之

△八月七日夜より八日朝江向大風雨洪水、押水水漬四反六畝、助左衛門方漬家ニ相成、其節吹折木三本、早稲方構ひニ相成不申中稲花納り、追々実入時節穂ずれ白穂出来、晚稲方ハ半

孕之時節風当り痛強く取劣、畠作綿五月之大雨二而生立不宜候処、六月中旬之照込二而ケ也二見直し候処、此度之大雨二而蝶挑吹落し候故多分取劣、小間物類吹折多く出来候事  
△潰家御救御下行金、翌卯年正月十一日、大庄屋所より請取当人江相渡

(八三)  
無足人子弟縁組之儀二付御達

見通し

大庄屋共

無足人共子弟之向、養子二差送り候儀、下方二而勝手次第二取結来候処、爾来他領江遣申間敷候、たとへ御領分たりとも無足人之内二縁組可致候、若無抛筋合も有之候ハ、其趣願出可申候  
右之通可申達事

寅八月四日

(八四)  
酒造減石従 公儀御触

△大目付江 諸用酒造之儀、追而及沙汰候迄鑑札高之半高相減、半高酒造可致旨、万延元申年九月相触置、関八州酒造之儀ハ同断三ケ式相減、三ケ壺酒造可致旨、文久三亥年八月相触置候処、当今米価格外之高直二付諸人及難儀候間、追而及沙汰候迄諸国酒造之儀ハ銘々鑑札高之三ケ式相減、三ケ壺酒造二致、関八州之儀ハ同断四分三相減、四分一酒造可致候、尤隠し造過造等無之様取締方弥厳敷改方可申付候、若隠造過造等いたす二おみてハ、其者ハ勿論其所之役人迄吟味之上急度可申付候条、心得違無之様可致候、右之趣諸国御料私領寺社領共不洩様、早々可被相触者也  
右之通可被相触候 六月、如斯七月廿二日相廻ル

(八五)  
年若之者若者仲間と唱組合候儀前々より御差留之所弥御停止

△年若之者、組合若者仲間と唱候儀、不風俗之儀共有之、先年来御差留之処、近頃猥二相成候二付、大庄屋所より厳重取締、夫々請印帳差出候事、尤八月六日御達二付、請印帳八月十九日差出ス、右取締ケ条書三拾四番四筆入別帳有之故此所二略ス

(八六)  
帶刀以上臨時出張之節合印御貸渡二相成候儀御達

見通し

大庄屋共

御家中之面々臨時出張之節、合印別紙之通御貸渡二相成候間、郷中帶刀いたし候者共都而右同様相心得可申候  
寅八月八日

袖印

一番頭以下独礼以上

白絹 黒餅印

一右以下并組々御家中連人迄

白布 黒餅印

但段々羅法被着用之者ハ袖印不用

△

別紙之通御書付相渡候二付、写廻し、可被奉得其意夫々入念可被申聞候、以上

八月十九日

伊藤七右衛門

(八七)

御模様二寄俄二西筋江御出張可有之二付郷夫御触宛并御延引

△藤堂仁右衛門様を初其外様も御模様二寄、西筋江俄二御出張

可相成儀も可有之二付

用意郷夫貳人 長谷場

外村略之

郷夫被 仰付候間、老人子供病身者等相省、達者成者江早々可申付置、御日限被仰出次第二相達可申候間、郷夫途中并先地二而も喧嘩口論ハ不及申、御法令筋堅相守可申候、嘘病を構御用之御手支等いたし不申様、精二入相勤可申旨、尤みの笠いきづへ用意可申付候、并当こうりハ御貸渡可被下、郷夫言人二付わらんじ拾足ツ、何村誰と名札を付持参候様、右ハ先地迄別段為御持可被下、先地并途中休泊<sup>(主儀)</sup>御焚出し可被下候へ共長々相成候も難計候へハ、郷夫言人二付金三兩つゝ小使村役人より取賄可相渡、御出張火急二相成候儀も難計候へハ、此触廻達次第申付置、猶前以津着之節村役人之内付添郷夫名前書持参、大庄屋詰所江案内いたし候様、且郷夫五人以下之村ハ村毎村役人出津二不及、最寄申合惣代二而言人付添可罷出旨六月廿九日御触二付、村<sup>(主儀)</sup>其手当いたし置候処、八月四日右御出張二不及旨御達二相成候趣被仰下候間、御手当郷夫罷出候二不及旨、八月五日大庄屋所より通達有之

(八八)

藤堂帰雲様初石州口御応援御出張附属之者并郷夫

練出し右一件

△庄屋永谷助之丞撒兵相勤居候処、藤堂帰雲様西筋江御出張被仰付、就而ハ撒兵附属二而出張被仰付候間、何時二而も罷出候様用意可致旨、八月八日御触

△当村江郷夫言人被仰付

松本庄三郎様郷夫言人 茂兵衛

右被仰付候二付、達者成者江可申付旨、尤郷夫言人二付三兩つゝ取賄、内巻両当人江相渡、貳両ハ御役所江出し候様、尤来ル十四日正八つ時迄二召連、役所江案内いたし候様、八月十二日御触

△御惣督藤堂帰雲様、司令士中川三之助様 深井友郎様、檢使小

西八十郎様、郷鉄砲組吉田惣右衛門様 箕浦藤兵衛様 丹羽九八郎様 島川佐平駄様、撒兵支配八太丞内様、旗奉行深井武吉様、合図支配佐伯永吉様、横目役吉田一平様 三村郷右衛門様、軍師中村兵之進様、御使番小野正兵衛様 小川達三郎様、儒者川北新助様、其外儒医、御右筆、員役并御組士拾五人、壮士拾五人、馬医、御勘定所下役、御武具方、小荷駄支配、御作事方、郷夫才判、郷医、焚出し方、各附属之兵隊指揮、八月十五日卯中刻丸之内京口御門内より出雲様御門前迄二列を立、二番三番之相図之貝を以繰出し、同日足坂休ミ平松泊、十六日山田休上野泊、十七日島ヶ原休ミ笠置泊、十八日加茂休奈良泊、十九日郡山休法隆寺泊、廿日福万寺休平野着、但本陣八大念佛寺二而夫々寺方下陣二相成、撒兵ハ東本願寺懸所恵光寺二止宿相成候処、同日公方様薨御二付、御繰出し御見合一先引取候様 一橋中納言様より御差図有之由二而、九月廿八日同所引払、福万寺村休蔵田泊、廿九日郡山休奈良泊、十月朔日加茂休笠置泊、二日島ヶ原休上野泊、三日山田休平松泊、四日足坂休二而帰津、同日中刻帰村

△右之節伊州方より番頭藤堂玄蕃様八尾二本陣、藤堂豊前様久宝寺二本陣、都合勢伊二而兵士卒千余人有之候事

△庄屋助之丞出張留守中、田中村之儀ハ野田村庄屋矢野村藤川久米平江取扱被仰付、当村之儀ハ助之丞倅習吉江代番廻り名代勤被仰付、取扱候事

△十月十五日御用之儀有之二付、助之丞下馬江同日四つ時迄二罷出候様御達二付罷出候処、御惣督藤堂帰雲様を初、檢使郷鉄砲頭 撒兵支配 横目 御普請方 目付 同手附役 御代官所等出席、横目方吉田一平様より達二而、此度応援出張致候二付酒料として金三朱被下候事、但其節嚮導組二も言人鳥目言貴文つゝ被下候事

△帰雲様石州口御応援惣督御免、右附属之御方々も御同様二付、御供いたし候撒兵 郷鉄砲 加人郷鉄砲も同様御免二相成候間、其段申聞候様十二月四日御触

(八九)  
公方様薨御

去ル廿日

公方様薨去被為遊候段大坂より申来候、依之郷中鳴物音曲屋造り普請堅相慎、諸事物静二いたし可申候、尤火用心重々入念可申候、右日限追而可相触也

寅八月廿四日 弥三右衛門 強右衛門

大庄屋名前

覚

- 一 山海之漁獵相慎可申事
- 一 御家中町郷中共魚売出し申間鋪事
- 一 寺社談儀法事神事可有遠慮事
- 一 町統之郷中自身番辻番共昼夜入念可申付事

寅八月廿四日

- △ 山海之漁獵商売二いたし候者迄 △ 御家中町郷中共魚売出し候儀ハ八月廿七日より御免 △ 御停止中二ハ候へ共、廿七日より演武莊二而諸稽古不苦旨 以上三ヶ条三日之慎
- △ 是迄取懸り有之普請作事、九月四日より物静二致不苦、新二取懸り候分ハ無用 但十日之慎
- △ 公辺より御沙汰之趣も有之候二付、普請作事町統郷中自身番辻番法事談開帳之類九月八日より御免 但十四日之慎
- △ 右同断二付鳴物所作二仕候者并稽古人指南請候儀其外鳴物音曲出獵之外九月廿日より平日之通御免 但式拾六日之慎
- △ 御停止之儀 但

(九〇)

## 庄屋永谷助之丞倅習吉駆廻り名代勤被 仰付

以 村送申進候、然者

御自分儀

長谷場村庄屋駆廻り名代勤被 仰付候間入念御勤可有  
 之候、尚田中村之儀、助之条殿御留守中 野田村 藤川桑平江

庄屋当分預り被仰付候、此段為御心得申進候、以上  
 九月七日 長谷場村 習吉殿 伊藤七右衛門印

尚々御礼廻勤可被致候、以上

(九一)  
運送車所持之者江運上納候様御達

近來諸荷物運送車御免二相成、就而ハ浜付馬并宿馬難洪之旨段々申出、依之下方末々御糺有之候処難洩無余儀次第も有之候二付御救方御考之筋も有之重々 御評議之上御領下町郷中車持之者江冥加金上納被 仰付、則左之通

- 一 津町并町統之郷中車、沓挺二付年々 金二分つ、
- 一 一円之郷中二而平日米 酒 木材 炭 柴 薪 干茶其外諸荷物曳車、沓挺二付年々 銀七匁五分つ、
- 一 村中限二而肥し土或ハ木柴等全村限他村江曳出し不申車、沓挺二付年々 銀式匁つ、
- 右之通被 仰付候二付、車持之者江早々可被申付、右金上納方之儀ハ毎冬取立可申候、以上

寅八月十七日

伊藤七右衛門印

△ 車之御焼印出来候二付、車持主名前書出し候様、翌卯年三月十八日御達二付、当村地下車三挺、村附二而御上納米之外曳不申候二付、村役人預り郷蔵江入置有之候段書上候、同廿四日 燒印 改荷車

(九二)

## 当年不作二付取締并諸借金元居

△ 村々氏神祭礼之儀、当年米価格外之高直且当作之儀も先日之風雨出水二而田方余程痛、猶當時勢之儀二候へハ寺社内挑灯限二而其餘幟挑灯等ハ一切相止、湯立神樂迄二仕村方日待いたし候様、大庄屋所より伺二相成、且神祭二角力等致候村々、



是迄之通致度分ハ書付を以伺出可申旨、九月廿一日御触  
 △年柄金限融通不宜、窮民難浹之趣相聞候二付、憐愍を以諸拝  
 借上納米金当寅春々年限置居利足迄上納可致、然ル上ハ相對  
 貸借も可準之、尤返済差留候儀ハ無之候間、取返り付候分ハ  
 限月無遅滞元利返済可致、触面二事寄不実之儀有之候ハ、急  
 度御沙汰可有之旨、十一月十二日御触

(一〇〇)

### 諸藩衆議被 聞食候二付若殿様御上京

△諸藩衆議可被 聞食候間 殿様 若殿様之御内御上京被遊候  
 様、先達而飛鳥井中納言様より御達有之候処 殿様二ハ兼而  
 御宿病之御儀二付、御名代 若殿様御儀、来ル十五日爰許御  
 免駕、東海道御上京可被遊旨被仰出候段、十月六日御触  
 △十月十八日京都江御機嫌克御着座之趣、同廿日御触

若殿様御儀当廿八日御参 内

龍顔御拜被遊候上、伝奏衆御出席二而今般御召候処速  
 二御上京被遊候段、被為蒙 歡賞、難有御大慶 思召  
 候、且又去ル廿三日

上様御旅館御登 營被遊候処 御目見段々御懇之被為  
 蒙 上意、難有御大慶 思召候旨申来候  
 右之趣郷中末々迄相触可奉恐悦也

寅十月晦日

弥三右衛門  
 強右衛門

大庄屋名前

△十一月廿七日、御参 内 龍顔御拜、天盃御頂戴之上伝奏衆  
 より御達二而、被為蒙御暇候二付、同廿九日京都御免駕、伊  
 賀路四日歴御帰津可被遊旨被仰出候段、十一月廿九日御触、  
 十二月二日御着

(一〇一)

### 御毛見并皆無不立毛御改一件免合記録凶作

△当年御見立免二付、稲草畝分目錄六月之月附二而七月二日夏

御国割差引之節大庄屋所江差出、尤別帳扣有之候故略之

△中稻方五ヶ屯以下二付、村坪いたし差出、桶田多郎右衛門初  
 八合四勺稲草まんそく、同所清左衛門稲九合稲草まんそく、  
 かど新助稲草大穂、又式升六合四勺初平し八合八勺、右庄屋  
 助之丞長州征討二付石州口御応援附属出張留守中二付、野田  
 村庄屋当分預り取扱、九月五日差出ス

△久世孫之丞様御添毛見、石井四郎兵衛様御毛見、十月二日野  
 田御泊、翌三日当村田中御休、志袋御泊二而御立入、其節御  
 通り筋并御坪所近辺不立毛田も御見分有之候二付、附木札建  
 置候様前以御触有之、前夕御先触并御坪之節心得方不立毛坪  
 初仕出し書差出し候様御達二付、右役人共之内、二日夕御泊  
 所野田村江御伺旁御請二出候事

△十月三日早朝より用意人足召連、庄屋驅廻り名代勤習吉、年  
 寄茂左衛門共野田村境迄御迎二罷出、辰中刻過当村江御移り  
 二相成候二付、御坪所御案内、御毛見御坪苅込、田中村御休  
 所来岸寺二而御坪初仕出し二相成候二付、同夜御泊志袋村正  
 清寺江村役人之内御請二罷越候事

△皆無不立毛下改之儀、庄屋助之丞石州口御応援のため摂州平  
 野迄出張中二付、驅廻り名代勤習吉 年寄茂左衛門 組頭、并  
 当分後見野田村庄屋矢野村藤川桑平立越下改二加り打廻り、  
 九月廿六日より四日相懸り下改いたし候処、皆無畝数九畝拾  
 式歩、不立毛畝数八町四反式歩五厘有之候二付、帳面仕上九  
 月廿七日藤川□□<sup>(中略)</sup>差出ス、同所より大庄屋所江進達いたし  
 候事

△山岡鑑之進様、伊藤七右衛門殿、松本宗十郎殿、小目付柏原  
 伝右衛門、吟味役南河路村森谷小次郎 古河村原金次郎 黒野  
 村順助 嶋貫村清七、御手代衆、竿取衆、御下男共御上下拾壹  
 人、九月廿九日小船御改御休後、当村田中打混し三手二而御  
 改二付、田中村庄屋当分預り当村庄屋当分加り野田村庄屋矢  
 野村藤川桑平を初、両村役人三手二御案内、御休泊八田中村  
 二而十月二日朝迄式泊壹休、御改相濟半田村江御移り相成候  
 事、尤御休泊雜用両村御改畝数二割、当村請分壹石壹斗四升

△合同暮田中村二相渡、巨細拾七番帳面之内当寅年帳尻之通、皆無願畝二不立毛帳之内より加入共御改畝数ノ九畝式拾七歩、

分米壹石壹斗八升四合、此有米壹石式斗壹升三合、免ニメ三厘式毛、不立毛願畝之内省并皆無二相成候分引改、ノ畝数八

町式反六畝五厘、分米百九石式升「（主標）」、百拾壹石七斗壹升壹合、内有米六拾四石七斗五升九合、引ノ不足米四拾六石

九斗五升式合五歳引、免ニメ壹つ壹分八厘九毛之帳尻と成

△御免札御渡御評定十一月十五日二而、翌十六日大庄屋所より御渡二相成候二付、頂戴二罷出拝見いたし候処、御蔵入免三

つ三分五厘、御給知免三つ三分七厘四毛、内三厘式毛皆無御助免、七分七厘三毛不立毛御助免二而、御改帳尻免ニ六分五

厘之取下二而、三割半引ケ申候事 但本免ハ去丑年同様二而定免ニ五厘上り之事

△当年小入用仮相場三儀式分替、小入用免五分四厘六毛、去二老分八厘七毛下、毛附押合免九つ八分四厘〇〇八八毫四、

仕切相場式儀八分替 但翌卯年二月二至り、相場式儀切込候様相成候処四月頃より追々下直二相成、六月下旬二ハ四儀二相成候事

(一〇二)

### 御用金調達被 仰付

△十月廿八日御達之儀有之候二付、庄屋之内同日四つ時迄二大庄屋所江罷出候様、同廿七日通達有之候二付罷出候処御達左之通

見通し

町年寄共  
大庄屋共

### 演舌書

近来

御上 若殿様、毎々御上京を奉始、所々江為御警衛御

人数御差出、猶又京都和州異変之節之御軍勢御繰出し等二付、其余口々御用途筋莫太之御儀二付、御散財種

(一〇)

々御手繰御徑済之御所置被為在候へ共、漸々御差湊故、追々御手繰御六ヶ敷被為在候二付而ハ自他御借り入金

を以追繰、御用弁御取賄被 仰付候へ共、近年兎角二不作之年柄打続、御收納も夥敷御取劣、前頭御散財向

ハ弥高二相成候上、自他御返下等二而、御勝手御役人二も此上御手繰御接廻二被為及候御儀、深奉恐縮居候

折柄、長防御征討御応援被為蒙 仰、御軍勢御繰出二付、御軍費万端不容易御儀二付、此度こそ 御領内江

御用金調達被 仰付度旨頻ニ奉歎願候処、格別二難有御仁慈之 思召を以、御聞届不被為遊候処、一先つ

御休兵二も相成候二付、旁以右調達之儀先つ相見合候様被 仰出、深 御憐旨之段難有奉感戴、然ル処此

度 若殿様御上京二付、右御入費も不容易御儀二付而ハ、御勝手方御役人より前条之儀奉再願、何分にも時

機不被為得止次第柄、無御抛深く御洞察被為遊、漸々御聞届ハ被為遊候へ共、差向当年中之調達之儀被

仰付候而ハ御領内一統難洩迷惑も可致二付、只今より篤と申諭、其心得二而手繰融通方仕置、明卯年春冬兩

度二調達為仕可申旨被 仰出、誠ニ以難有御憐愍之趣、於御役人共ハ、当節御相当之御儀を斯迄

尊慮之御程重々無勿体奉恐戴候、付而ハ 御領内町郷江別紙割賦之金高并貸上之御利足御返下之年限同様二

被 仰付候間、銘々勝手次第第□□（主標）申出候様可致候、元来郷方之儀ハ無足人より平百姓二至ル迄、当今所々江

出張多端二相務、失費等も不少、其儀ハ 御憐愍も被為在候、乍去下方よりハ從來之 御国恩を深く奉存

上、精誠相励調達之儀願出候様為在度候、町方之儀ハ郷方と違ひ有徳之者共ハ尚更、小前末々迄も此度こそ

調達金を以御用相勤、年来之奉報 御国恩候外無之、当節専務之儀二付格別二抽丹誠調達仕、年来奉浴 御

恩沢、一家相続安穩二渡世仕候冥加を奉存上、奉報御国恩候様可致候

右之趣  
御憐旨を以被 仰出、調達之儀篤と為奉拝服町郷中割  
賦之通

篤と奉体認、專為相勵候様取扱可申候事

町年寄共  
大庄屋共

寅十月

右之通御達二相成、田中村当村之処別紙書取を以割賦被仰付、  
左之通

式拾兩

長谷場村  
田中村 庄屋

永谷助之丞

式拾兩

田中村 庄屋

慶次郎

式拾兩

田中  
長谷場之内より

右之通調達いたし候様、尤御利足年賦之儀三步利拾五年賦、  
五步利式拾年賦之内銘々次第申出候様御達二付、当村分左之  
通

一金式拾五兩  
調達金

長谷場村

一金式拾兩  
右之内

庄屋永谷助之丞

五步利式拾年賦

五兩

三步利拾五年賦

清吉

右之通十一月四日帳面請印二而差出置候事

△翌卯二月五日半金取立同八日納、十二月十五日残り半金取立  
同十七日納申候事

△卯十二月晦日御達之儀有之二付、同朝六時半時大庄屋所江罷  
出候様御達二付庄屋助之丞罷出候処、御達左之通

覚

一金百疋つゝ、  
一鳥目五百文つゝ、

村々庄屋式百式拾七人  
村々年寄三百九拾式人

昨年被 仰出候調達金、小前之者共江申諭等之儀骨折  
取扱候二付、為 御褒美右之通被下候

覚

一金式百疋

長谷場村  
田中村 庄屋

永谷助之丞

外名前略之

昨年被 仰出候調達金出精いたし候二付、右之通被下  
候

右之通可申達事

覚

一金五拾疋

長谷場村

清吉

外村々名前略之

昨年被 仰出候調達金出精いたし候二付、為 御酒料

右之通被下候

右之通可申達事

右之通被下候二付、夫々村々役人手分いたし御礼廻勤ス  
△三步利拾五年賦調達金五兩之内、明治元辰年十二月、壹分五  
匁并御利足御下ケ金、五步利式拾年賦調達金式拾兩之内元濟  
壹兩并御利足御下ケ金、同二巳年十二月、其年壹ケ年限元居  
被仰出候二付、御利足迄御下ケ金之処、御一新二付公債二相  
成、三步利拾五年賦残り元四兩二分拾匁、五步利式拾年賦残  
り元拾九兩共、合式拾三兩二分拾匁分御公債書式拾五兩以下  
二付、御買上代金明治六酉年閏五月十一日請取候分五兩九匁  
七分式厘、元金割入相渡、清吉分壹兩壹匁七厘之手取二而、  
三兩式分八匁九分三厘之損失、助之丞分四兩拾八匁六分五厘  
之手元二而、拾四兩三分と銀六匁三分五厘之損失と成、巨細  
ハ式拾四番袋入御用調達金請払勘定帳二記

(一〇三)

金子不融通二付質物及利上之儀御達

△先年より村々身元ケ也二暮候者共、村内融通のため質物預り、金子貸遣し候処、近來米価を初諸色追々高直二相成候二付、自然と金子不融通二而手繰六ケ敷、乍去所々二而口入借り入金を以村内融通仕居候処、当節柄二而金子逼迫二而借り出し候儀も難出来趣二付、事実承り候処、品々高価二随ひ金利も引上ケ、其上逼迫二而下利借り入ハ勿論、たとへ割式歩之利足出し候而も不融通二而、金子手二入不申迷惑難渋仕候趣、郷中質物之儀も町方之通

## 衣類

金壹兩二付 金壹匁二付  
錢百文二付 錢壹匁五分

## 道具類

金壹兩二付 金壹匁二付  
錢百文二付 錢壹匁五分

## 夜具類

金壹兩二付 金壹匁二付  
錢百文二付 錢壹匁五分

## 俵物

金壹兩二付 金壹匁二付  
錢百文二付 錢壹匁五分

右之通為取扱申度、尤村々全当座二取凌之融通二而、双方示談之上借り貸仕候儀故聊差支筋無御座候段、大庄屋所より伺二相成候処、伺之通為取扱候様被仰下候間、此段質屋向江入念可申間旨、十一月十八日御触

△質屋之外金銀貸借并村入用諸取賄利足之儀ハ、当暮從前之通壹ケ年割式歩利、壹ケ月利足壹分二有之候処、翌卯年五月同済之上四月迄之分ハ從前之通壹ケ月金壹兩二付銀六分、五月以後ハ壹ケ月銀九分と相成、年内壹割八歩之利足と相成候事

△明治元辰年冬迄利足年内壹割八歩之割を以取計いたし候処、同暮より年内式割之利足二相成金壹兩二付銀拾式匁之割、壹ケ月分利足壹歩六厘六毛六糸六弘、則金壹兩二付銀壹匁二相成候事

(一〇四)

衣服飲食其餘儉約御取締并婦人之襟二天鷲絨御用捨御触

見通し

町年寄共

飲食衣服普請贈答養子嫁娶等之儀、文化度以來追々触達有之候へども、年久敷相成候二就而ハ漸々相弛ミ、就中飲食衣服ハ次第第二奢侈二趣候、当節柄必至と取締可申之処、間々心得違之向も有之趣相聞如何之事二候、乍去時勢二随ひ此度別紙之通格別二差免候条、右之外御制禁之儀ハ前々より申達有之候通向後堅相守、不風俗之儀一切無之候様、尤酒宴遊興之節等ハ猶更之儀と相心得可申候、若等閑二相心得候者於有之ハ屹度曲事二可申付候

右之趣町郷中末々迄不洩様可触達事

寅十二月朔日

見通し

町年寄共  
大庄屋共

飲食衣服之儀ハ勿論、前々より申達有之候御制禁筋之儀ハ堅相守可申候

一 近年料理屋共次第第二奢侈二長し、種々手数を相懸候品物相用ひ来□□都而手数相省質素を第一二いたし可申候

一 呉服屋共爾來縫有之襟きれ一切売買無用二候  
但他所売之品たりとも爾今仕入申間敷候

一 左七羽織と相唱、近年猥二絹服之品柄相用候者有之趣相聞如何之事二候、爾來急度相心得可申候

一 衣服之儀者、当節下方為弁利此度格別二差免し候品柄も有之候、就而ハ右等之趣意決而心得違申間敷候、若此以後心得違之者於有之ハ、隠し目付嚴重二申付有之候二付、見付次第無用捨取締可申候条、此旨兼而為心得置可申事

衣服之儀ハ、譬是迄差免有之品連も、時勢二随ひ此節格別高価二相成候品物も有之、右等ハ銘々心得可有之事二候、猶又是迄御制禁二候得ども、左之品々当節下方弁利之趣二付格別二差免候、猶此以後新製新舶来二而都合にも相成候品有之者、模様二寄追而差免可申候

一 呉服之儀ハ当節弁利之品二付、羽織并襦高袴男女帶等二相

用候儀不苦候

但羽織ハ無地ニ限り、其余地紋縞類勝手次第、尤右之品相用候ニ付衣類ハ勿論襦高袴等ニ至る迄、自然花美ニ流候而ハ全為弁利差免候趣意相触候間、決而心得違無之様可致候

一婦人之襟ニ天鷲絨相用候儀不苦候

但天鷲絨ニ不限縫有之品ハ前々より申達有之候通一切不相成、弥堅相守可申事

△俟約御取締之儀ニ付、別紙之通御書付相渡候ニ付写廻し候条、被奉得其意小前末々迄不洩様入念可被申聞候、以上

十二月四日

伊藤七右衛門印

(二〇五)

米搗候節明礬磨砂加候儀弥御停止并糠問屋御取立

△米搗候節明礬磨砂等差加候儀御差留之儀、嘉永四亥年三月御触達有之候処、猶又此度

見通し

町方并町統郷中米屋共之内

町年寄共  
大庄屋共  
めうばん  
みがき砂

差加米搗候儀不相成旨、嘉永度町方并町統郷中江触達有之候故堅相守可申筈之処、兎角等閑ニ相心得今以心得違之者も有之趣、其米糠中江交物等いたし候哉ニ相聞甚以如何之事ニ候、爾今決而右様之儀無之様、町方町統郷中米屋共ニ不限町郷末々迄触面之趣堅相守可申候、若此以後心得違之者於有之ハ急度可申付候  
右之趣町郷中米屋共ハ勿論、末々迄不洩様可申達事  
寅十一月廿八日

見通し

覚

本町米屋

半四郎

大門町米屋

久七

立町米問屋

金兵衛

町年寄共  
大庄屋共

此度糠問屋申付候、御厩并御家中納糠之儀手支無之様申達候儀ニ可有之候

一御家中江糠買廻りニ参候者、糠買屋之鑑札持参之者江壳払ニ相成可申候

一町郷中共糠問屋之鑑札持参不致者江ハ糠壳申間敷候一町郷中酒造方并す屋方糠之儀、御領分肥し糠ニ壳払候儀ハ勝手次第第二候得ども、船積之儀ハ不相成、糠問屋江差出し可申候

但近辺酒造方糠之儀ハ品物宜敷候趣ニ付、精誠糠

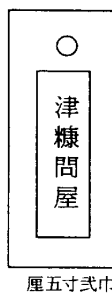
問屋江差出し、同所より御厩江相納可申候

右之趣町郷中末々之者并酒造方米屋共江不洩様触達、心得違之者無之様急度可申付候事

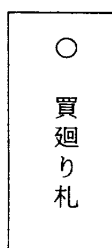
寅十二月四日

竪四寸五分五厘

鑑札 表



裏



右文字焼印

右文字墨書

△右不熟之者も有之ニ付、明治二巳年九月七日前段写を以御取締御触

(二〇六)

諸色格外高直ニ付諸職人直上

△近年諸色格外高直ニ付、別紙之通作事奉行より諸職人共江申達候ニ付、雇入方二も為心得右書付写尙通相渡候、其余諸事嘉永三戌年 文久元酉年 元治二丑年二月 同十一月申達之通相心得可申旨、十二月十九日御触

覚

大工 葺屋 左官 畳屋 木挽共

上之職人 葺工二付銀六匁三分四厘 並職人 同五匁九分壹厘

木挽通挽賃 巾尺壹丈三尺 壹通り二付 銀壹匁九分但大割ハ別段之事

紙細工 葺工二付銀六匁七分六厘

瓦屋 葺工二付同七匁四分

右何れも内銀式匁五分三厘つゝ、飯料

右之通来ル十五日より可請取也

寅十二月

作事方

(一〇七)

## 雅七郎様御逝去御慎其外年内御忌中

\*

雅七郎様御病氣御養生不被為叶、今已刻御逝去被成候、依之

鳴物音曲 今廿六日より来月十六日迄廿日之内

停止

普請作事 今廿六日より来月六日迄十日之内

停止

右之通相慎、火用慎別而入念可申候

右之通郷中末々迄不洩様可令触知也

弥三右衛門

寅六月廿六日

強右衛門

大庄屋名前

見通し

町年寄共

大庄屋共

一御家中江売物ニ参り候共声高二呼り不申、門内江入

御用無之哉と可申事

一浜漁ニ参り候共御法事中ニ候へハ仰山ニ無之様可仕

事

一米市之儀相止候ニ不及

併御慎中ニ候へハ静ニ可仕事

一寺々談儀法事等差留ニ不及候、併御慎中之儀ニ候へ

ハ仰山ニ無之様可仕候、門両脇桃灯立候儀ハ無用ニ

候

一雨乞之儀、鳴物相止仰山ニ無之様宮籠迄不苦候

一虫送り之儀、鳴物相止メ送り火迄ハ不苦候事

寅六月廿六日

△清雅院様御逝去ニ付

殿様御忌中御慎可被遊之処 貞姿院様より御忌解之儀被仰上

候ニ付「(虫標)」御内向御忌被為解候、全御内向迄之儀ニ付、

狹事祝儀事或ハ参宮等ハ相慎、其余ハ不苦旨御書付を以七月

四日御触 但普請作事鳴物音曲御免ニ相成候へ共、私事之葬

事祝之参宮ハ不相成候事

△御忌ハ被為解候へ共、全御内向迄之御事故当盆中ハ物静ニい

たし候様、大念佛之儀ハ仰山ニ無之様相触可申旨、七月七日

御触

花山院前右府様薨去ニ付

鳴物音曲

三日之内御停止之処、此節 公方様御慎中之儀ニ候へハ為心得、九月九日御書付を以御触有之候処

猶又九月九日より

普請作事鳴物音曲

九日より十五日迄七日之内御停止

右九月十四日御触

水野出羽守殿

御死去ニ付

鳴物音曲

昨五日より今七日迄三日之内停止

普請作事

無構

△十一月七日御触

\*頭注

御続左之通

御当君様より三代以前

祐信院様

御(虫標)□□御隠居西御殿御事

大学守様

雅七郎様

御養子

浄徳院様

御当君様

若殿様

(一は朱線)

(一四)

殿様御在国

嶋  
佐十郎様

（貼紙）

宗十郎殿弟岩之助事交名  
松本宗吾殿

(一〇八)

大庄屋名前

伊藤七右衛門印

之旨正月十七日御触 同十七日御停止

△当節御慎中二付、明後十日初午祭礼之節社内之飾物或ハ其社地門内等江少々之挑灯懸候儀ハ不苦候ヘ共、鳴物ハ神楽之節まで二いたし、幟等相建候儀ハ先相見合、総而仰山二相成不申候様相心得可申旨二月八日御触

△御慎ケ條之内京都より御沙汰之趣有之候二付、普請作事来ル十五日より不苦旨二月十三日御触 御慎四十三日

△鳴物音曲獵事之外平日之通相心得可申、且又鳴物所作二仕候者并稽古人指南請候儀も不苦旨二月十九日御触 同四十八日

△鳴物音曲二月廿九日より不苦、漁獵渡世二致候者ハ格別、其余御家中共漁獵是迄之通相慎可申旨同晦日御触 五十七日御停止

△漁獵今十四日より御免被遊候段四月十四日御触 百二日御停止

△正月二日御嘉例之御着座御謡初三月三日二御整被遊、同四日町郷□□無足人并御用承り候町人迄年賀御礼被為請候二付、

庄屋永谷助之丞御目見無足人二付御礼登城いたし候事

△正月十四日之とんど三月十四日二延し候事、勿論年頭之祝儀無之

### (一〇九)

#### 御見立免願

△去ル亥年御請免年限中御見立免二奉願、其後年々去寅年迄壹ケ年限御見立免二願繼之処、猶又卯年之儀者壹ケ年限御見立免二被成下候様、正月晦日願書差出し置候処、五月朔日御聞届御沙汰有之

### (一一〇)

#### 去寅年不作米価高直二付極窮凌兼候者江御粥被為下候事

△格別之御憐愍を以町方并町統郷中極窮者江先日より御救御粥被下、尚又御城下傍近之村々二も御粥可被下旨今日被仰出候、御領下村々極窮二而凌兼候者共江御粥可被下、就而ハ飢二も及可申者、村方二而ケ也二暮候者より助成等いたし、此節多人数二而為取凌候儀難出来村ハ可願出旨、二月三日御触達有

之候二付、当村之処ケ也二凌を付居候二付、此上及必至候ハ、精誠村内仮成二暮候者より少々つゝ助成米金を以為取凌、難行届節ハ御願可申上旨、二月十日口上書を以申上候事

### (一一一)

#### 奇怪之事有之二付取締御触

以廻文申入候、然者近頃北勢辺江何方之者歟箱を持来り、最初ハ預ケ置、其後右之箱取二来り候節異術を為見改宗をす、め候よし、全御法度之邪宗類族二而も可有哉二被存候、就而ハ小前末々迄不洩様被申聞、右等之儀申来候とも一切取敢不申様、箱二而も何品二而も身元も存不申者より預り不申様、尤何事を申懸候とも相手二成不申様入念可被申付候、尚寺院向江も右之趣可被申聞候、何等申来候者有之候ハ、其子細早々申出候様御達可被成候、小前迎も如何二存候者来り候ハ、是又早々申出候様、御達各方江申出候ハ、早速書取を以可被訴出候

三月十五日

伊藤七右衛門印

先日相触置候、近頃北勢辺江何方之者歟箱を持来り預ケ候上異術を見セ改宗をす、め候由、全御法度之邪宗類族二而も可有哉二就而ハ、右等之儀申来候とも一切取敢不申、箱二而も何品二而も身元存不申者より預り不申、何事申懸候而も相手二成不申様相触置候事二候、然ル処此頃北神戸宿江も来り候趣二付、右等之者何等申来候ハ、其子細早々申出候様、尚又入念相達置候様被仰下候間、急々小前末々迄入念可申聞様取扱可有之候、以上

三月廿九日

伊藤七右衛門印

△三月廿四日、義倉金納村々庄屋集会之節噺二、箱を預ケ二参り重而取二来り候節改宗をす、め□□、一旦箱を預り候者ハ右す、め二不随時ハ急二悩乱を請、右災難逃れ候儀難相成



由、神戸方江罷越候節ハ同所土方及町人等多人数出、追逃し候由ニ而手ニ入不申、其後追々近付、部田辺迄来り候由噂高く、近辺村々ニも夜ニ入候ヘハバ等入念、人声高く事有之候ヘハ驚、或夜甘酒売ニ来り候者有之、其節箱預ケハ相止、甘酒ニ改候趣噂有之

(一一二)

紀州藩松坂二而調練之儀ニ付御触

△近頃御領内下方之風説、長州人追々京都江登り候由、何れ不温往々乱世ニも可相成、御当君ハ京都より御依頼ニも相成居候ヘハ、品ニ寄紀州ハ御公儀御三家之儀御敵対之程も難計、其節ハ松坂も御取可被成哉杯と風説いたし、又紀州領下方ニも色々風説有之、和歌山御家中之内周易ニ達し候士有之、大納言様江も其事申上、徳川之天下滅亡不遠候之間、合戦ニ及候ハ、式百五拾年大平之恩沢ニ浴し候御恩を此と而御用立報し候様とて、金之葵御紋付御鉄砲を下方江御渡しニ相成候杯を申、或ハ去寅七月大坂ニ而薨去之將軍、全偽ニハ、実ハ御存命、則当国前之部田三浦長門守殿御陣屋江御隠居、夫か為二絹縁之御畳等多分出来候杯と申、兎角不穩風説、追付松坂との合戦近々可有之杯と申者多く有之候処、三月十九日御触左之通

見通し

町年寄共

大庄屋共

此節松坂表改革ニ而紀藩士多人数相詰專調練等有之由、是迄迎も御隣交之御儀ニ候ヘ共、当節格別ニ被紛合候折柄ニ付、同所通行を初徘徊之節決而不調法無之様相心得可申候

右之通郷中江可触置事

(一一三)

山崎詰撒兵仲間上打金を出し長詰頼合之儀御世話

被下候事

△是迄山崎詰撒兵当番非番ニ而交代いたし候処、役儀多端ニ相務候者も有之、或ハ身上之都合ニ而長詰出張いたし居候而ハ不都合之向も有之、又ハ上打金次第第二而人之分も引請出候而も宜者も有之候処、三月十九日御触ニ而山崎詰撒兵出張難渋いたし候者、長詰いたし候而宜者、又ハ順番ニ出張可致者ト三等ニ取調、来ル廿三日夕迄二書付を以可申出、尤出張難渋之向ハ長詰致候而宜者江代勤ニ相成候事故、老ケ年二凡五六兩ツ、ニ而も償金為差出候積り銀を以取調可申旨三月十九日御達ニ付、当村永谷助之丞儀ハ当今居村 田中村 前田村等之三ヶ村庄屋役相勤居、御用向間欠出来候ニ付、償金差出し可申候間出張之儀御免被下度段、三月廿六日書付差出し置候事但八月十九日御手当御改革ニ而撒兵御免ニ相成候ニ付、償金出し不申候事

(一一四)

宗旨人別改

△当年改高惣人数百五拾壹人、内男六拾八人女八拾三人、内五人内男式人女三人去御改以後増人、外八人内男三人女五人去御改以後減人、家数式拾九軒、無屋壹株、馬数六疋丸内壹疋増、牛数八疋内壹疋増、右之通書上候事、尤奉公人ハ拾人内男六人女四人御家中并御領下久居附郷中ニ奉公稼人

(一一五)

軍装御改革被 仰出

見通し

大庄屋共

此度御軍制御改革被 仰出、別紙之通

御達ニ相成候間

御家中江

心得之儀可被申達候事

郷鉄砲組以上之者江

卯三月

如斯被仰出候写相廻し候条、早々可被申聞候、以上

三月廿九日

伊藤七右衛門印

△別紙写三拾四番御法令筋四筆入別帳有之

△六月廿日大庄屋所より廻文、先達而相触候御軍製御改革二付、陣服其外被仰出候通り夫々定而用意被致候儀二被存候、撒兵之儀撒之字くつし方相伺置候間追而可申遣旨

△十一月七日同廻文、無足人并同格之外農兵相勤候者ハ臨時御用之節笠羽織ハ御貸渡二可相成候へ共、胴服伊賀袴ハ羅紗以下木綿二而も不苦、銘々相調候様御達二相成候間、臨時御用之節差支不申様夫々入念可申聞旨

△同十三日廻文、陣服背紋并笠印雛形相廻し候間急々写、取撒隊中撒兵中江急々可相達、則別紙雛形之通、陣服背紋雛形之通地白二而撒之字ハ黒、笠印地金色二而撒之字黒、右之通二候間違不申様相達可申旨

見通し

御手当懸り中江

無足人共

陣服并笠御改革之儀二付、先達而申達候儀も有之候へども、爾今笠二銀之輪付候儀金二而も不苦、且又郷方役儀相勤候者共ハ大庄屋格并以上、笠之後江自分紋附候儀不苦候

但農兵相勤候者共ハ是迄之通相心得可申候

右之通可被申達事

卯十一月四日

如斯御書付相渡候二付写廻し候条、被奉得其意

無足人中江

早々御達可被成候、就而ハ笠江付候輪巾寸之儀ハ先達而写を以御達申候御定之内二有之候通、巾帋寸之輪二候間此段御承知可有之候、且又役儀相勤候者之内笠之後江紋付候儀追而御達可申候、右ハ同中二御座候、以上

十一月十四日

伊藤七右衛門

(一一六)

## 宗忠大明神信仰之者之儀二付御触

△近頃宗忠大明神と歟信仰御城下并近辺流行、甚怪敷風説も有之候処、六月朔日大庄屋所より廻文、宗忠大明神之社人と歟参り祈禱いたしもらひ、且弟子入等致候向有之哉二相聞候、右者是迄いたし候儀致方無之候へ共、以後ハ御役所より御沙汰二相成候迄一切相止メ候様相達可申旨被仰下候、尤是迄祈禱杯致もらひ病氣全快いたし候者も有之哉、相答訳二ハ無之候間、祈禱二預り病氣全快いたし候と歟、又ハ全快不致と歟、否早々取調申出候様被仰下候間、否御上書を以早々有無共可申出候、猶宗忠大明神之社人二不抱、其余右二類し祈禱向二参り候者有之候而も同様相心得候様被仰下候、此段相心得祈禱二預り候者無之候ハ、其段も可申出旨御達二付、当村二祈禱等を請候者耆人も無御座候段、六月二日書上ル

△同十七日大庄屋所より廻文

(一一七)

## 御領下盲人共支配之儀御達

見通し

町年寄共

大庄屋共

覚

蔵町

川口勾当

爾来

御領下盲人共之可致支配旨申達候間、一統不洩様右支配を請可申、尤御領分町郷二而是迄座中二不入盲人共ハ勿論、向後盲人二相成候者又ハ他領より引越参り候盲人共二而も座中江不入分ハ

川口勾当

(二八)

弟子二相成支配を請、去ル文化十酉年從  
公儀被 仰出候御書付之趣相心得可申候  
右之趣心得違之儀無之様町郷末々迄可申達事

卯六月廿日

如斯御書付相渡候二付写廻し候条、被奉得其意末々迄  
不洩様可被申聞候、以上

六月廿一日

伊藤七右衛門印

(一一八)  
雨乞

△当年植付、五月十九日より廿四日迄二植付、六月朔日雨、其  
後天氣打続、同十八日夕立、十九日も夕立、同廿一日雨、其  
後旱続、折二ハ夕立も有之候へ共雨少く養水弘底二相成、別  
而山田天水所及畠方腐候二付、七月十四日夜より同十八日夜  
迄五夜之内氏神江鳴物二而雨乞<sup>(主儀)</sup>懸候処、同十五日昼後  
少々潤雨、猶十六日未刻頃より潤雨二而畠方ハ一端之凌を付、  
田方ハいまだ行足候程之儀無之候へ共、御利生之儀二付雨乞  
休願届、日待いたし候事

△七月廿三日夜より同廿七日夜迄前同様雨乞、前池ハ同廿四日  
干落、向池天神池ハ同廿五日干落

△同廿八日御触御書付相渡、早魃二付御領下作物不難の為明廿  
九日より於 一御厨觀音雨乞御祈禱被 仰付候二付、右御祈  
禱之御札村々町々江被下候条、村役人町役人百姓共江可申聞  
旨御達、右御札八月三日当村江式被下奥合二相立候事

△同廿八日より八月三日迄村々氏神江雨乞屋籠、八月四日より  
幟をさし鳴物二而雨乞屋籠之處、四日ハ式百十日二当り且雨  
降候二付休願届、日待いたし候事

△雨乞願札、八月廿一日葉王寺村天王、同廿二日村々氏神願解

(一一九)  
兵庫江開港御触

大目付江

来ル十二月七日より兵庫開港、江戸并大坂市中江も貿  
易のため外国人居留致し候筈二付、諸国之産物手広二  
搬運勝手二可遂商売もの也  
右之通御料私領寺社領共不洩様可触知候  
右之通可被相触候

六月

△七月十八日御奉行所御添書付を以、同廿一日大庄屋所より相  
廻る

(一二〇)  
蒸氣船御買入二付下方江御達

△御上此度御買入之蒸氣船、来ル廿日頃当着二相成候由、尤其  
節御炮発も有之趣、下方如何之儀哉と存不申様兼而前以為心  
得置候様、何れ弥々日限出入者御沙汰可被下由、七月十五日  
御触

△右廿五日着船有之旨、七月廿四日御達

△諸荷物何品ニよらず江戸井上方筋江差送度者ハ、此度御取寄  
二相成候御船江御積入御送り可被下間、願敷者ハ申出候様、  
猶先地二而買入等之模様も有之、御船江乗込度者ハ多人數ハ  
不相成候へ共、両三人位ハ願出候へハ御聞濟可被下旨、八月  
廿一日御触

見通し

町年寄共  
大庄屋共

此度御軍艦御取入二相成候二付而ハ、諸荷物何品ニよ  
らず江戸井上方筋江差送り度者共ハ、御積入之儀願出  
不苦旨兼而申達候事二候、就而ハ右荷物之

廻船名主共

荷繼問屋共江

引繼取扱候様申付候条、諸荷物積入度候ハ、右同人共  
江願届荷物差出し可申候  
右之通町郷中二可申達事

卯八月廿九日

右之通御達二相成候処、猶又十月十五日左之通

見通し

町年寄共  
大庄屋共

覚

此度御軍艦御取入相成二就而ハ、諸荷物何品ニよらず  
江戸井上方筋江差送り度者共ハ、御積入之儀願出苦  
旨兼而申達候事二候、就而ハ右荷物之儀廻船名主共荷  
繼問屋共引請、取扱候様申付候条、諸荷物積入度候者  
右同人共江駆合可申旨、先達而申達候処取惑候向も有  
之候趣、右ハ御用物并御家中荷物ハ

町郷諸荷物ハ

廻船名主共

荷繼問屋共

右之通引請取扱可申儀ニ付此旨相心得可申  
右之通可申達事

卯十月十三日

右大庄屋所より十月十五日御触廻ル

△町郷中調達金之者江、翌辰正月五日より同十五日迄拝見、伺  
之通被仰付候事

(一一一)

## 飯減御手当天保度之御囲穀詰替被 仰出候事

△去寅年八月、天保度之御囲穀之内八千俵新粉を以御詰替被仰  
出候処、凶作二而実入不宜故御見合、当年之儀ハ四千俵相納  
候様被仰出、則大庄屋組々割付、当古河組分五百七拾八俵、  
当村割当り粉九俵、但是迄御囲穀之通粉壹俵二付四斗俵貫目  
拾壹百五百目以上、則粉壹升二付六合五勺摺之割、俵拵之儀  
も是迄之通大繩懸二可仕旨、伺之通被仰付候事  
但天保度被仰出候節ハ、粉壹升二付粉五合五勺摺之割を以  
上納仕有之候へ共、当年之儀ハ本文之通御詰替之儀ニも

候へハ、六合五勺摺之割二被成下度段伺候事、尤干手入  
等重々入念可申

△十一月廿四日御蔵江上納、兼而伺之通粉壹升六合五勺摺之割  
を以御年貢江御立被下候事

(一一二)

## 御家中自分抱足輕之儀二付御達

△此度御手当御改革二付、御家中様方御自分御抱鉄砲之者御入  
用二付、御城下一里外之村々江御相對二而御召抱之御相談ニ  
相成可申由、就而ハ家別御手当郷夫壹人つゝ、残し候上二而、  
御頼を請候而も不苦候間、此段小前江不洩様可被申聞候、尤  
家別当代人二而残し置候儀相当り候へ共、自然当代人年背  
之者二候へハ嫡子を残し次男三男或ハ弟等二而相談申上候様  
可被致候、尤御屋敷くよりも村役人江向、村方差支有無御  
きたひ可有之候間、其節々村役人より御屋敷江御請之御返答  
不申内二早々大庄屋所江可申出、委細承り候上差図可申候、  
当人共も御屋敷より御頼談有之旨も、村役人江相尋候上御請  
可申旨申答置、早速村役人江申出候様入念可申聞置旨、八月  
十二日御触

(一一三)

## 御坪所内江茂兵衛種違二付御呵

△当年御見立免二付、御坪所内字大花江晚稻可致候、七月下旬  
中稻方追々はしり穂之節、晚稻方御坪所惣畝耆町式反四畝式  
拾式歩之内字大花中田七畝拾歩、作人茂兵衛、田方はしり穂  
全中稻方まんそくと申稲草二相違無之旨申出候二付入念相糺  
候処、去夏御囲穀耆俵拝借、右去十月下旬返上之節取違候儀  
二相違無之、就而ハ晚稻方植付可申積り之田方、何れも中稻  
と間違二相成候間迷惑仕、別而御坪所江種違之段弥々奉恐入  
候旨、七月廿六日口上書差出置候処、茂兵衛八月十二日御呼

出、御達左之通

覚

坪所種違いたし候段不届之至二付、爾来急度相心得可  
申旨

支配大庄屋より

呵置候様可被申達候事

八月十二日

見通し

郷目付江

右之通御達、尤御坪所内種違ハ当人追込可被仰付仕来り之処、  
事情御聞分御呵二而相济候二付、年寄茂左衛門同道、両御奉  
行所御郡方御代官所御支配之分共御礼廻勤候

(一二四)

伊勢両宮を初社参之節礼服用不敬之儀無之様  
從 公儀御触

大目付江

伊勢内宮 外宮 石清水八幡宮 春日社等ハ重キ

神靈之儀故別而尊崇專要之儀二候間、参詣之輩礼服用  
用、不敬之儀無之様可被致候

右之趣去月廿八日於京都相触候間、万石以上以下之面  
々江不洩様可被相触候

七月

右八月十七日御奉行所御添書付を以、同十八日大庄屋所より  
触達有之候処、同晦日御触左之通

見通し

町年寄共

大庄屋共江

伊勢両宮神拝之節礼服用之儀從

公儀被 仰出候趣も有之候二付、其段触達置候事二候、  
右ハ胡服并筒袖稽古襦伴之類着用ハ不宜候へ共、其余  
ハ是迄之通相替儀無之趣二付、為心得此段無屹度又々  
可致通達事

卯八月廿九日

(一二五)

御越国

△是迄御在国年二ハ九月中御越国被為在、伊賀上野九月廿五日  
御祭礼為相济御帰津先例之処、当年之儀 若殿様御儀為 御  
名代、来ル廿四日御遠馬之御姿御略共二而、長野越伊州江可  
被遊御越国旨被仰出候付、平松通し并片田継勤馬且人足之儀、  
例之通取扱

△十月六日御帰津、都而御越国之節之通取扱候事

(一二六)

御関所通し方之儀并御開港商社取立外国交易取組  
方之儀且金札通用諸国産物運送取締之儀從 公儀  
被 仰出御書付

大目付江

関所通し方之儀前々より御規定の趣も有之候処、今度  
御変事被 仰出候条、来ル八月朔日より別紙之通相心  
得可申候、尤是迄御留守居二而取扱候廉も、以来都而  
関所懸り御目付取扱候筈二候

七月

右之趣万石以上以下之面々江不洩様可被相触候

條々

一 婦人通し方之儀別段の改無之、惣而男子同様之振合を  
以相通し、小女も振袖留袖勝手たるべき事  
一 剃髪惣髪 かふろ等総而別段之改無之事  
一 首死骸 乱心 手負 囚人等手形無之候共、差添之者よ

り証書差出通行可致事

一諸役人急御用之節、上下共夜中も通行不苦候事

一鉄砲武器等ハ其品々差添之ものより証書差出通行可致事

一是迄印鑑引合通行之分、以来其儀二不及候事

右之通可相心得候

大目付江

此度兵庫開港商社御取立二付、外国交易取組方元手金として差加金致し、又ハ品物等交易取組度ものハ、大坂中之嶋商社會所江申立候様可致候ハ、商法益銀を以銘々に金高二應し割合相下ケ、尤差加金致し候共交易届無之ものハ相当之利共可相渡、尤右金差懸り入用之節ハ何程にても申立次第相下ケ候筈二候  
右之趣御料ハ御代官御預り所、私領ハ領主地頭より不洩様可被相触候  
右之通可被相触候

八月

大目付江

此度兵庫開港商社御取開相成候二付而ハ、融通之ため此節より金札当分之内通用被仰出候二付、都而通用金銀同様相心得、御年貢其外諸公納物二相用候而も不苦候間、五畿内近国共無差支通用可致候、尤右札正金二引換之儀ハ商社會所并商社頭取其外御用達候方二おみて、引換候筈二有□右引替二付而ハ歩割等一切無之候間、不取締り之儀無之様正路二取引可致候事  
右之趣御料ハ御代官御預り所、私領ハ領主地頭より不洩様可被相触候  
右之通可被相触候

八月

大目付江

近年諸国産物運送差滞物価(騰)貴弥増国用不便利二

(一一)

付、右取締のため江戸大坂両所江御国産役所御差建相成、両所二おみて荷主共より諸問屋江相送候品々、送り状江引合相改奥印致し相渡、売捌方之儀ハ是迄通り取計、其外港々之儀御料ハ支配役所、私領ハ役場江出し、奥印を請、両所之外江送帆之分ハ御国産役所江荷物員数出合可相届候、右之通江戸大坂并諸国御料私領寺社領共不洩様可被相触候  
右之通去ル八日於 京都相達候間向々江可被相触候

七月

右之通九月十八日御奉行所御添書付を以、大庄屋所より九月廿日相廻ル

(一二七)

### 御毛見皆無不立毛御改一件并免合記録

△当年御見立免二付、稲草畝分目録六月之月附二而七月朔日夏御国割差引之節大庄屋所江差出す、別帳有之故略之

△中稲方五ヶ一以下二付、村坪いたし耕付差出す、桶田清蔵清右衛門事事粉壺升稲草まんぞく、同所多郎右衛門粉七合五勺稲草

大穂、かと新助粉八合五勺稲草大穂、武式升六合粉平し八合六勺六才六六六、九月十三日差出す

△久世孫之丞様 寺田直右衛門様御毛見、十月五日野田御泊、当

村志袋御休、井戸久保御泊二而御立入之旨、其節通り筋江不立毛付木札相建候様御先触、猶又御坪之節心得方不立毛粉仕出し書差出候様御達二付、村役人之内、五日夜御泊所野田村江御請二罷出候事

△十月六日早朝より、用意人足召連村役人野田村地境迄御迎二

罷出候処、辰中刻頃御引移り二付、直々御坪所江御案内、御坪之上上当地蔵寺二而御坪粉御仕出し、巳中刻頃志袋村江往来通り御引移り二相成候二付、御礼志袋村江罷出候事

△皆無不立毛下改、九月廿日廿一日兩日村役人組頭下改いたし候処、皆無畝数六反五畝八歩、不立毛畝数五町七反六畝式拾六歩有之候二付、願帳仕立、同廿七日大庄屋所江差出す

△長田圓六様、御手代 竿取 御下男共御上下四人、前田七郎左衛門殿 小目付松本又左衛門 吟味役小船村田中藤右衛門二子村源内、十月七日田中村皆無御改、翌八日午刻前当村江御移り、皆無不立毛御改、御休二而申刻頃相済、長野谷二御引移り二相成候二付、人足繼立所前田村迄人足送り候事

△皆無願畝之内より不立毛江切出し引残り、改メ畝数式反七畝式拾壹歩、分米三石七升、此出米三石式升壹合、免ニメ八厘壹毛、不立毛願畝之内省引帳より加入、改メ畝数五町式反七畝拾五歩、此分米七拾式石壹升、此出米七拾石八斗五升八合之内有米三拾七石八斗三合引残り、不足米三拾七石五升五合五一米引、免ニメ八分三厘九毛之帳尻と成

△御免札御渡御評定十一月十一日二而、翌十二日大庄屋所より御渡二付、頂戴二罷出拜見いたし候処、御蔵入免三つ五分、御給知免三つ五分式厘四毛、内八厘壹毛皆無御助免、三分七厘七毛不立毛御助免二而、四分五厘之被下、御改帳尻免五割半減少二相成候事、但本免ハ去寅年二毫分五厘上り、定免二式分之上り二相成申候事

△当年小入用仮相場四俵替、小入用免八分式厘三毛、去二式分七厘七毛上押合、毛附免拾と七分八厘三毛七糸七払と四四、仕切相場五俵三分五厘替

(一二八)

### 出火之節駈合を初諸向陣服相用候儀御達

見通し

町年寄共 大庄屋共  
出火之節駈合を初諸向陣服相用候儀勝手次第之旨此度

被仰出候二付、爾今相用候向も有之<sup>(虫撰)</sup>ハ自然取惑候様之儀有之候而ハ不宜候間、此段兼而為心得町郷中末々迄達置可申事  
卯十月

右十月十三日元治講二付、古河江罷出候節大庄屋所達

(一二九)

### 海外諸国江学科修業等二罷越候儀志願之者江御免之儀二付從 公儀御触

大目付江

海外諸国江学科修業又ハ商業の為相越度志願之者江御免之印章相渡候二付而ハ、印章請取候節江於当地ハ外国奉行、神奈川 長崎 箱館表二おゐてハ其所之奉行江手数料可相納候、納方等之儀ハ印章相渡候節申達候筈二候

右之趣可被相触候

八月

大目付江

ツホルトガル	フロイセン	スイス	ヘルギイ
葡萄牙	字漏生	瑞西	白耳義
イタリヤ	テンマルク		
伊太里	抹		

右国々之儀、亜墨利加 阿蘭陀 魯西亜 英吉利 佛蘭西等之振合を以、追々條約為御取替相成候条、末々之者二至迄其旨可相心得候  
右之趣御料私領寺社領共不洩様可触知もの也  
九月

右之通可被相触候

右之通、十月廿五日御奉行所御添書付を以大庄屋所より同廿八日相廻ル

(一三〇)

### 御被及奇怪之物を降し人氣狂乱二付御取締

先日以来所々江諸神之御被降候趣二而、村内おとり歩

行候者も有之候由、且御法度之品を着用いたし参宮いたし候者も有之趣、中ニハ異体ニ而参り候者も有之候趣相聞以外之事ニ而、右ハ其村々急々御取締可有之候

御祓候家之当代人、平生体ニ而参宮いたし候儀ハ格別、多人数一時ニ参詣いたし候儀ハ一切不相成候条、此段も入念可被申聞候、村内おどり行候儀等も以後いたし不申様入念御取締可有之候、以上

卯十一月七日

伊藤七右衛門印

先達而來近国所々并当国江も御祓降候旨申立、彼是世上人氣動揺いたし候趣、付而ハ当地ニ而もおはらひ軒下江捨置、又ハ投ケ込杯いたし候者有之候趣、右徒党之者之内此度御召捕ニ相成候事ニ候条、此旨小前末々迄為心得被申聞置、猶以御取締重々入念候様可被致候、以上

十一月八日

伊藤七右衛門印

見通し

町年寄共  
大庄屋共

近頃町郷中所々江御祓降候趣ニ付、此度御家中江別紙之通御触達ニ相成申候、町郷之儀ハ先達而無屹度及沙汰候儀も有之候趣、世間一般之儀とハ申ながら町方之者共、専ら右等之風ニ被化心得違之者も有之候ニ付、早速取締可申筈ニ候へ共、余之儀とハ違ひ候間少々之事ハ見免し置候趣、其後追々増長ニ及候ニ就而ハ、酒興ニ乘し往来江罷出右往左往ニ踊等いたし通行ニも差支、且難言等いたし候趣ニ付此後

諸士江

対し不礼之儀無之とも難申、自然右様之儀有之候而ハ事柄ニ寄其尽難捨置者士分当然之儀ニ付、往来ニ於而踊候儀ハ一切不相成候間、たとひ御祓降候とも宅内ニ

而神酒を祝ひ候歟、万一不得已候儀有之候ハ、別紙書取之場所江出、大仰ニ無之様踊候儀ハ格別ニ用捨いたし候、猶又参宮等いたし候とも右ニ準し、花美之儀無之様可被相心得候、右之段

小前末々迄

堅相守候様入念可申達、尤見廻り之者差出有之候ニ付、若此以後於村方も心得違之者有之候ハ、無用捨屹度可及沙汰候、此段兼而為心得置可申事

卯十一月十三日

当節市中江

大神宮御祓降候哉ニ而、彼是人氣動揺いたし候趣、いまだ御家中江ハ何等之儀も不相聞候得共、自然此後御殿向江も右様之儀有之間敷ものニも無之、万一有之候とも御祓を御疎略ニハ決而不被遊候得ども、右ニ付御祝ひケ間敷儀等ハ一切無之候間

御家中之面々ニも

此段被相心得、縦令右様之儀有之候とも御祓を疎略ニ不致、銘々志次第ニ而代参等出し候ハ格別、酒肴相設酒宴ケ間敷儀ハ勿論、下輩之者共江神酒等振舞候様之事ハ、士分之身ニおゐて無之儀ニ候得共、若取惑より彼是人氣動揺之姿ニ相成候而ハ不宜候間、酒宴ケ間敷事ハ堅致間敷様可被相心得候

町方并町統江之別紙写

たとへ踊候とも、手寄之社地又ハ河原浜辺等ニ限り可申候、尤途中村役人共付添可成質素ニいたし、往来之妨ニ不相成候様、堅為相心得可申候事

但南浜江出候儀ハ無用ニ候

別紙写之通御書付相渡り候ニ付廻し候条、被奉得其意小前末々迄不洩様入念可被申聞候、以上

卯十一月十三日

伊藤七右衛門印



△十月下旬以来、多くハ通り筋江降候趣高、鳥杯くわへ飛歩行候而落し候も有之、又雀め杯之小鳥くわへ内江飛入候も有之、多くハ不知して壺之内等江落散候趣、鶴など御祓を加え高く飛行候を見請候も有之候二就而ハ、始め之程ハ寄特成候事ニ存居候処、後ニハ甚以奇怪之物を降し候由ニ而、御祓降候を隠し居、或ハ不祭方ニハ決而凶事有之杯噂有之、十月下旬御米御納所日之時、分部町川北久太夫方法恩講御取越相勤候節、出火ニ而大ニ騒動、所々より駆付漸くもみ消、家焼失ニ不至候へ共、火事駈合等多人数駆付候事故町方往來も留り候程之事ニ候処、其以前御祓降候を隠し置候故との取沙汰ニ而、斯騒動ニ及候へ共、跡ハ何事もなく疊沓枚こげ候而已、屋根之上高く燃上り候へ共跡ニ而見請候二屋根何等之事も無之不思議之事共也、或ハ夜中町方町統杯、壺之内ニ大なる響いたし、翌日見改候へハ大石落居、又ハ牛馬之骸屋根之上ニ落居、或ハ怪我之腕又ハ足など落居候も有之杯、甚以奇怪之珍事取沙汰而已、又当国近郡之内何れの船敷、海中ニ而船之中江何歟落候音いたし見及候処、千両箱金子入之俤降候由噂有之、此節市中德利茶碗等を携踊歩行通行之者、何用之者とも無差別酒を為吞、昼夜狂ひ踊歩行、其囃子ニ曰、エジヤナイカ エジヤナイカ ナムデモエジヤナイカと云踊り、実ニ奇怪之事ニ候、右ハ通り筋何れも同様之事ニ而、町方町統郷中ニ限り、其余之在方ニハ無之、都而御祓之降候も多くハ通り筋ニ而、近辺ニ而ハ南河路 浜垣内 五軒町 殿村 前田 五百野より上等ニ而、野田 当村 田中江ハ降不申、尤郷中江降候而も踊歩行等ニ而ハ無之候、実々ハ 殿様之御殿内江も降候由、両宮江之御代参窃ニ立候趣噂有之、極月ニ至り右等之説相止ル、又其頃之流行時花うたのふしニ、タイソジヤドンドと云、果して翌年正月差入より伏見之騒動ニ而、大騒ニドン動たり

## (一三二)

## 近頃御城下ハ勿論郷中江も隠蜜入込候趣ニ付御触

△近頃何方之者とも不相知商人、きぬいと杯を持歩行、入用無之哉ニ尋廻り候へ共、遠国之者と相見え言葉一向不相分、風体も如何敷商人、郷中江も入込候へ共、時節柄何れもいやらしく相手ニ相成不申候、右体之者当秋以来ハ格別多く徘徊いたし候事

△右ニ付御触、近頃何方之者とも不知、或ハ商人体ニ而御領下江入込探索いたし候趣、就而ハ風体如何敷者立廻り候ハ、其段早速可申出候、其模様ニ寄往先々跡をしたひ、泊場所を見届可申旨、内々村役人心得迄ニ申達候間、小前江一切移り不申候様相心得氣を付可申、見請候ハ、内々早速可申出旨、十二月十八日御触玄蕃

## (一三三)

## 天下之諸藩京地二つどい若殿様にも御上京相成居候処大乱戦争旦夕ニ接迫御当家江対し寇讐を含候哉ニ付急速御引取

△十一月十一日御書付を以御触、兼而 若殿様御上京御日限被仰出有之候処、今夜京都より今一応頃合申上候上二而 御発駕被遊候様ニと申来候二付、右御左右之上御日限御治定可被仰出候条、郷中末々迄可申渡旨御触、同十三日大庄屋所より廻文

△十二月十一日御書付を以御触 若殿様御道中倍御機嫌克、去ル八日京都江御着座被遊候段申来候条恐悦之御事ニ候、此段郷末々迄可申渡旨同十三日御触廻文

△若殿様京都堀川御屋敷ニ被成御座候処、十二月十九日夜何者とも不相知多人数鎗等を提、堀川御屋敷を取囲候処、御当家之諸兵隊ハ屯所隔居、且御供之御近衆諸士方或ハ町宿等ニ而これを不知、御屋敷内無人ニ而僅ニ拾四人ニ不過、何れも必死之思ひニ有之候処、子刻過、取囲居候多人数一旦引取候間

二四五人御召連御遊歩、無提灯二而山越、伊州をさして御落延相成候処、右途中追々御人数追付、同廿日夜伊州上野江着二相成候由、跡二而下方風説有之

△十二月廿二日御触左之通

若殿様御儀、御願之通御暇被為蒙 仰候二付、昨廿日京都御発駕、伊州二而一日御逗留被遊、明後廿三日御帰津可被遊旨、被 仰出候段申来り候条、奉得其意火用慎別而入念候様、郷中末々迄可申渡也

卯十二月廿一日 弥三右衛門  
強右衛門

大庄屋名前

別紙之通御書付相渡し候二付写廻し候条、被奉得其意小前末々迄不洩様可被申聞候、以上

十二月廿二日

伊藤七右衛門印

右十二月廿二日酉上刻相廻る

(一三三)

徳川内大臣慶喜様御政務御辞職并三藩  
大坂江御立退

薩州  
長州  
土州

凶勢二付

△將軍徳川内大臣慶喜様、表を奉り十月御辞職之處、追而諸侯會議決して職を解可申、先夫迄其保可相勤旨二有之候処、諸侯之會議を不待、且徳川氏を抜、朝廷私二三藩と議し、有栖川熾仁親王を以総裁とし、三條実美 岩倉具視等を議定とし、薩藩之土小松帯刀 土州藩之後藤象次郎 長州藩之木戸準一郎等を参与とし、十二月九日会津桑名之二藩九門之宿衛をとき、彼三藩これ二代る、摂政関白幕府を廃し、高札を懸而三藩之士京師二はびこる、同日令下るや、内大臣、会津桑名兩侯を二條城二議し、朝廷二党して曰く、先達而辞職之表を奉る詔二諸藩之入朝を待て事を決すべしと、而して我等九日之議ニ与るを得ずして、三藩と議を決する者ハ何事そやと、時二

薩長其外之諸侯宮闕を守り、徳川氏之將士守衛を省く、物情恟々として徳川氏を潰さんとする勢ひ□、是二より同十二日、大坂江御立退、同廿九日三藩之士、会津桑名之宿所婦女子等を追払、婦女子等三日食せず、はだし之俣迄来り、翌辰三月朔日、当国坂之下二而初而食を乞求て命を□下りしと

△宿駅馬之高札当御領分之處翌辰二月七日引払